

I - A - 18

開放隅角緑内障に対する
柴苓湯の効果

1) 大森赤十字病院眼科 2) 東邦大学医学部第一眼科

○齊藤康子¹⁾、齊藤伸行、朽久保哲男、河本道次²⁾

【目的】近年の報告では開放隅角緑内障(POAG)は、40歳以上では30人に1人は存在すると言われ、しかもその大半は自覚的症状はない。視野狭窄や視力低下などの症状を自覚したときにはすでにかなりstageが進行していることもある。POAGによる視神経障害は不可逆的なため診断がつきしだいすみやかな治療が必要である。本症の治療として重要なのは眼圧の日内変動を減少させ、高眼圧になることを防ぐ点にある。

我々は柴苓湯の浮腫を除去する作用に注目しPOAGにたいする効果を判定した。

【方法】すでにPOAGと診断されている患者7症例に対し柴苓湯9.0gを内服投与し定期的に眼圧測定と視野検査を行い、投与前と投与後で比較検討した。視野測定にはハンフリー自動視野計(静的量的視野)、ゴールドマン視野計(動的量的視野)を用い検査を行なった。

【結果】全ての症例で柴苓湯投与後には眼圧の変動は安定化し、高眼圧を示す症例は存在しなかった。また、視野狭窄の進行も停止した。

【考察】現在POAGの患者の治療には眼圧を低下させる目的で β -blocker、縮瞳剤、エピネフリン点眼薬がfirst choiceとされている。点眼薬で眼圧のコントロールが不可能な症例は炭酸脱水酵素阻害剤の内服を行なうが、かなりの症例で手の痺れなどの副作用が出現する。

今回、我々は柴苓湯がPOAGの眼圧を安定させるのに有効である知見を得たが副作用を示した症例はなかった。POAGは経過が長く長期投薬が必要であることを考慮すると柴苓湯は本症に対し非常に適した薬剤であると思われた。